

校長・副校長・
教頭先生に役立つ！



【発行日】 平成30年 2月28日
【発行者】 茨城県教育庁就学前教育・家庭教育推進室
電話 (029) 301-5132
【取材・編集】 一般社団法人 子育てネットワーク ままもり

すくすく育て いばらきっ子

就学前教育・家庭教育推進室だより

教育庁 学校教育部

もりた みつる

森田 充 部長 にお話を伺いました

前回の教育長インタビューに続き、今回は幼児教育から高校教育まで、さらには特別支援教育の指揮を執る学校教育部の森田部長に県の教育についての想いや、期待することなどをお伺いしました。



― 部を挙げて特に力を入れて取り組まれていることは何ですか？

― 幼児教育から小中高、そして大学への接続が課題です。また、将来の教員不足も懸念しています。将来、教員になるのは今の子どもたちです。子どもたちに、学校はかけがえのない場所であり、先生は素敵な職業なのだと思います。先生方にかかっていると言っても過言ではありません。一人でも多くの子どもたちが「将来は学校の先生になりたい！」とってくれるような学校現場にしていきたいと思います。

― 現代ならではの課題、その解決策はありますか？

― 昔に比べて、現代の子どもたちは体験不足と言われています。モノを作り使う、人と接して折り合いをつけるなどの経験です。昔は大人の言うことは絶対でした。しかし、現在は子どもを優先した場面も多く見られます。我慢し、譲るといった感情が育まれる機会が少ないように感じています。それらの体験は学校だけでは補いきれません。家庭での取組も重要なのです。教育は学校の教科だけではないということ、家庭教育こそが大事であるという認識が社会全体に広がることを望ましいです。学校と家庭が協力して子どもたちを第一に考え、先生と保護者が同じ方向を向いて、お互いに助け合うことが大事だと考えます。そういう大人の姿を見て子どもたちは伸びていくのではないのでしょうか。

― 管理職の先生方に「是非これだけは忘れないでほしい」と伝えたいこと

― 私は県内の様々な学校現場で教員生活を送り、今、このような立場にいますが、「現場で活躍できる幸せ」を改めて感じています。日々の学校現場では様々なことが次々と起こり、大変であることは百も承知の上で申し上げますが、『現場でできる幸せに気付いてほしい！』と願っています。限りある教職員人生を悔いのないよう活躍していただきたいです。

― 子どもたちにとって大切なのは何だとお考えですか？

― “友達から褒められて育つ自己肯定感”です。昨今は大人が子どもを褒めて育てるという考えは浸透しつつあり、意識されてきているでしょう。しかし、友達から褒められる経験は、大人から褒められる以上に自己肯定感を育み、自信へとつながります。是非、その機会を設けていただきたいです。

― 今後の茨城県の教育に期待されることを教えてください

― 幼児教育から大学までを見通した教育をはじめ、先生方と保護者が助け合い子どもたちのために活動することで「茨城の教育っていいな、先生って素敵な職業だな」と感じてもらえるようになってほしいと願います。

教えて！ 校長先生！

このコーナーでは、県内の学校管理職や幼児教育施設長の就学前教育・家庭教育の取組をご紹介します。今回は、那珂市立菅谷西小学校 大川 洋子 学校長にお話を伺いました。

菅谷西小では、幼児教育施設から小学校への接続がスムーズになるよう様々な取組をしています。特に隣接する幼稚園とは季節の行事を通して交流を図り、運動会や発表会をはじめ、児童が校外学習で不在の日には、空いた教室で園児の給食体験を実施するなどの交流を図っています。幼稚園と学校職員も互いに研修の機会を設けています。こうした触れ合いが、日々の挨拶からコミュニケーションへとつながっていくのです。



子どもたちの中にはコミュニケーションが苦手な子どもも多くいますが、その突破口も、まず「挨拶」。職員間や、学校と保護者間、親子間にも同じことが言えます。驚くことに親子間でも挨拶ができていない家庭も少なくないようです。私は、子どもたちには他者との交流を通して発見、感動する体験をしてほしいと願っています。感動体験によって、あらゆる才能が引き出されるのです。「子どもたちの伸びしろをしっかりと伸ばしてあげたい」という思いは教職員、保護者共通ではないでしょうか。「挨拶」というテーマは、学校と家庭が連携し共に取り組みたいものです。

♪♪ご案内♪♪

平成30年度 幼児教育指導方針説明会

県内の幼児教育施設長、公立小学校長等を対象として開催いたします。

日時：4月26日(木)

9:30～15:30

会場：ひたちなか市文化会館

【問合わせ】

教育庁学校教育部義務教育課

TEL：029-301-5226

ぜひ、ご参加ください。

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」活用モデル事業を実施しています

モデル市町村の幼児教育施設では、家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」の効果的な活用法に係る研究に取り組み、入所（園）説明会や保護者懇談会などで活用できる学習プログラムや子どもの送迎時など短時間で活用できるアドバイスプログラムを作成し、実践しています。

今後、その成果を報告書にまとめ、広く普及する予定です。

市町村	幼児教育施設
東海村	村立とうかい村松宿こども園 / 須和間幼稚園
日立市	茨城キリスト教大学附属認定こども園みらい園/せいじ園
鹿嶋市	市立三笠幼稚園
美浦村	村立美浦幼稚園 / 大谷保育所 / 木原保育所
八千代町	学ルンビー学園たちばな幼稚園



プログラム実践の様子



美浦村立美浦幼稚園(美浦村)の取組

【テーマ】 いろいろな体験活動を

【内容】 体験活動の大切さを学び、うさぎ先生(講師)と親子体操を実践

【保護者の感想】

下の子がいるため、あまりおんぶや抱っこをしてあげていなかったのですが、とても喜んでくれていました。家でももっと触れ合い遊びをやりたいです。

茨城キリスト教大学附属 認定こども園せいじ園(日立市)の取組

【テーマ】 子育てのすばらしさ～新しい世界への第一歩を見守る中で～

【内容】 子どもが体験したこと感動したことを親子で共有する大切さ

【保護者の感想】

子どものドキドキ、ワクワクを共有できるようにしたいです。子どもがママに話をしたいと思える“安全基地”づくりを頑張ります。

